

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム ハイムはまゆり

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O371100249		
法人名	医療法人 楽山会		
事業所名	グループホーム ハイムはまゆり		
所在地	岩手県釜石市小佐野町3丁目9番2号		
自己評価作成日	平成 23 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 24 年 1 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371100249&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 23 年 10 月 25 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは側には山があり川が有り町の中では少し自然の中にある様な環境でしたが今回の大震災で隣の旧中学校に仮設住宅がたくさん出来ましたかホームでの賑やかさは変わりない毎日過ごしています。ホームの近所には併設の介護老人保健施設や、併設病院、特別養護老人ホームがありそんな環境の中でのグループホームです。又病院にかかる際は待ち時間も無くスムーズに受診できる為入居者様にはとっても良い様に思われます。家族の方も安心しているようです。当ホームの一番良いところは入居者様の明るい笑顔といつも大きな声で歌を歌うことです。女性職員と元氣一杯の入居者様が居るところです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「主役は利用者、職員は黒子」といった心構えから、利用者の生活場面における出番作りを常に念頭において職員は関わっており、家族とのつながりも密接に保たれている。また運営推進会議でも事業所や地域に関する事柄が双方向的に話題となっており、地域との協働に大きく活かされている。近隣は一般世帯と日常的に顔をあわせるような環境ではないものの、法人運営の各種事業所が多く隣接しており、ドライブ時にはバスを出してくれる、母体施設の職員が顔なじみとして日々関わるなど、法人のバックアップ要素も強みである。震災の影響が少なかった中で、これまで培ってきた家族や地域機関との信頼、職員間の助け合いと母体法人の配慮等が大きなサポートとなって、現在の利用者職員との元気に繋がっている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ハイムはまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は職員の出入りしている所や玄関入口の廊下に掲示している。毎日の職員への申し送り時に理念である職員の心構えを声を出して反復し職員への意識付けを行っている。	主役は利用者(出来る事は自分で)、職員は利用者が出来ない部分の手伝いをするという職員の心構えを朝・夕2回復唱している。理念についても、職員の目に付くところに掲示し、利用者と一緒に実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への行事は全員で参加したり(町内会の盆踊りや法人での消防訓練には地域の方に参加していただき年2回は行っている。地域のボランティアによるお化粧して頂いたり婦人部の皆さんとお茶飲み会をしたりして交流を図っている。	町内会に加入、町内の行事への参加や、ホームでの行事にボランティアとして参加をもらう等交流している。婦人部の方々がシーツ交換で訪問した際には、お茶会を一緒に行うなど交流は出来ている。隣接地にできた仮設住宅地区との交流はこれからである。	仮設住宅の人たちとの関係づくりについてはこれまでのところ交流の機会はない。開設以降事業所が地域に受け入れてもらったのと同様に、今度は地域の一員として避難住民が地域に溶け込めるよう交流機会を探ってってもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩手県の福祉の仕事体験学習を受け入れ釜石市在住の女性を2名受講有り実施しました。これからも受け入れをしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回程度行われている。年に2回ほど家族会も同時に行い釜石市の地域包括センターの担当者との勉強会を行ったり、町内会の会長の地域に関するお話を聞いたり、家族からの意見を聞いたりしている。	参加者である自治会長は市議員でもあり、議会の話等から地域の復興に向けた話題が提供されているほか、家族会を併せて行う際にはほとんどの家族が参加している。また行政担当者は権利擁護等の勉強会講師を担当してくれるなど、協働意識をベースとした交流となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族会や運営推進会議に参加していただいたり、介護や生活保護の職員の訪問や、市町村主催の勉強会等に積極的に参加している。	行政としては地域包括支援センター長との関わりが多いなか、長年培われてきた信頼関係をもとに、震災後の状況でも事業所への配慮が得られている。家族からだされた新聞の慶弔掲載の要望にも、すぐに対応が得られる等、協力関係が確立している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	廊下に身体拘束排除宣言を掲示し、常に職員が目に留まるようにしている。当ホームは開所当所より身体拘束廃止いわて宣言身体拘束ゼロを目指して実行中です。	職員全員が、拘束ゼロに向けての取り組みを理解しており、開設時から拘束は行われていない。外出願望の利用者には見守りで対応し、一人で出かけてしまった時に備えて各公共機関やガソリンスタンド、小・中学校に協力をもらい、連絡体制も出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は新聞の内容やテレビのニュース等にも気を配り職員会や家族等への説明アドバイスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を利用している入居者は居ないが釜石市の包括支援センターの担当者からの勉強会を設けてもらい家族と共に職員も一緒に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、十分な説明をしている。説明後には分からない時や疑問等があった時は家族の面会時に対応し説明を行うようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で率直な意見が無い場合でもアンケートで出した頂いた内容を運営推進会議や家族会で報告をしている。又会議前に職員間で内容の話し合いを行っている。利用者様と家族にとってサービスの向上につながる様対応している。	家族の意見を聴く機会は設けているが、独自のアンケートを行い、家族が意見を出しやすい工夫をしている。「声がけが足りない。」などの意見にはすぐに対応するなど、意見の反映に努めている。	事業所では家族にできるだけ関わってもらえるよう関係づくりには力を入れており、受診対応の要望等に応えながら多くの家族と信頼関係を築いている。今後も家族の参加・協働意識を高める姿勢を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員に対して提案や要望を会議やその都度話し合ったりしている。出来るだけ少ない職員間で利用者により良いサービスが出来るようにコミュニケーションを図り楽しみながら仕事が出来る様に心がけている。	管理者と職員は、コミュニケーションを取りやすい環境にあり、母体の応援体制も築かれている。施設の中の業務の分担について、広報、業務、行事担当等決めるなど意見を反映している。また各担当の内容に管理者はあまり干渉せず、個々の自主性やアイデアを重んじている。	震災のショックは職員にも残っており、それぞれの痛みを職員全員で分かち合う意識が生じている。職員同士の助け合いが個々の暮らしの意欲につながっていくよう、今後も支えあっていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で労務管理や給与水準等を把握している。勤務時間帯も職員の要望を取り入れながらシフトを作成している。各資格の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの研修会や勉強会に参加して岩手県や釜石市の勉強会に職員を参加させている。又併設の介護老人保健施設での研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会や勉強会に参加し釜石市の料理研修会や食中毒等の勉強会等も行い参加することで質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族が何で困っていつかを見たり、聞いたりして、利用者が安心して生活ができる様、家族と共に不安を取り除くように対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活していく中で家族が困っている事は少し解消出来ると思うが、不安はあると思うので、面会時やその都度要望に聞き入れたりし安心して生活できるように対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談を受けても現在の状況を説明し入居不可能な場合は他のグループホームや在宅支援センターや併設の介護老人保健施設の相談員に紹介するよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中で言葉や表情を観察して支援される側、する側を意識せずお互いに協力しながら和やかな暮らしが出来るように支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の様子や職員の思いを伝える事で本人と家族の関係が良好になり笑顔で面会ができる様配慮している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人暮らしをしていた時の友人等が来訪したり、特に本人が育てた孫が面会に来たり、今回は津波により外出は控えたものの敬老の日になんで釜石市大観音には毎年出かけているので今回も出かけ海を見て参拝をしていた	全員で法人のバスで遠野の風の丘に出かけたり、法人の文化祭へ歌で参加しながら馴染み関係づくりや継続に努めている。また家族や友人が訪問するときは、フロアでみんなでお茶飲みをする場面作りにも心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの居室に招きいれたりソファや座敷、玄関前のベンチを利用したり仲良し同士お喋りできるように配慮しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても気軽に訪問して頂けるように家族にも説明している。退去後併設に入所されたサービス利用者が施設での行事等と一緒にになり関係の途切れないう対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者にとって何が最もよいが、利用者がその人らしく暮らして行ける様家族と検討をしている。快適な生活を送っていただけるよう特に、出番等に気を付けて対応している。	出来る事、出来ない事シートを作ったり、利用者の日々の行動や会話から利用者の心情を理解し、その人らしく快適な暮らしができるよう検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で利用者がこれまで培ってきた来たことを入居前に家族からバックグラウンド用紙に記載して頂きそれを元にして生活していく中で変化を見つけ経過等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、入浴、掃除、体操、の時間以外は特に決まったプログラムを作らずに利用者一人一人の状況を見て無理なく暮らせる様に計画を立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の関わりの中で利用者の思いや家族の思い、又意見を取り入れ利用者一人一人に沿った自分らしく生活できる様に計画を立てている。	出来る事、出来ない事シートから、利用者へのかかわりを検討し、家事における役割等優先的に計画に取り入れ、入浴、清潔、口腔、室内の整理整頓等、こまやかに一人一人に沿った計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がその日の介護の記録を記録している。特に見守りを必要とする利用者には細かく記録し、連絡を徹底している。又、三ヶ月の見直し等は介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない通院介助(併設病院以外)の介助を行ったり、併設病院の受診がスムーズに行われる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で生活して行ける様に町内にある派出所、消防署、小佐野地区生活応援センター、町内会等に広報を配布したり又、法人での集まりのある時等口頭で支援を要請している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の要望を取り入れながら、併設病院では利用者のそれぞれの主治医対応で適切な医療を受けている。	全利用者が、併設病院のかかりつけ医となっている。家族が都合で同行できない場合は、職員が付き添い、家族同行の場合も利用者の情報や状態がわかる職員が同行している。待たずに受診できることが喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されておらず併設の介護老人保健施設の看護師長や看護師に緊急時や相談、時には対応をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院に入院し、主治医との対応にてスムーズに連携が取れている。又入中の病棟看護師とも情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては家族には説明をしている。重度化も同様状態が変化した場合は主治医に情報提供して対応をしていただく。	重度化で医療が必要になった場合は、協力機関である法人の主治医に報告、情報提供し対応することとしている。終末期における支援については、家族に説明し、納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告やヒヤリハットの書類提出や急変時の対応の仕方等を勉強会で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人や併設施設との連携で合同避難訓練を行っている。又、町内会との協定書に基づき消防訓練に参加して頂いている。夜間帯の時間にも行い、日常生活の中で時々職員の掛け声で避難訓練をすることを会話の中に入っている。	法人として年2回、他にホーム独自で4回避難訓練を行っている。近隣の住民の参加があり、1回は夜間対応の訓練が行われている。震災の際は、法人の別施設で1週間避難生活を送った。現在備蓄について検討中としている。	避難生活の中では利用者職員共に事業所の「我が家」としての大切さを認識した。また職員間の助け合いと防災意識も強まり、近所のスーパーとの協力関係のきっかけも生じている。現在の意識をベースとして、今後の未長い災害対応に取り組んでいってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個々のプライドに気をつけながら話しかけや会話には十分注意をしながら対応をしている。プライバシーについても損ねないように注意して対応している。	入所時に今までの生活歴を聞き、利用者にとってのプライドを大切に、十分な注意を心がけて声掛けや会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定出来る様家族等に協力を仰ぎ自分でも納得の出来る様に働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的他な流れはあるものの特に強調せず一人一人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出はその人らしい装いが出来るよう声が消したり一緒に準備したりしている。又月1回町内会のお化粧クラブでおしゃれしていただき毎回おしゃれして楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューを決め利用者の希望を取り入れられたり、季節の食材で郷土料理等を取り入れ煮炊きは職員が行うも芋の皮むきやもやしのひげ取りや食後の食器拭き、米と偽をしている。	利用者の好きなものを順々に取り入れながらメニューを決めている。利用者のできること(下ごしらえ、米とぎ、食後の片付け、食器拭き等)は、職員と一緒に、楽しみながらの食事づくりと食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回確認し介護記録に記入している。三度の食事の外に午前午後の時間又入浴後の水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りや声かけ等で歯磨きを行っている。就寝前には義歯を預かり消毒している。起床時に利用者渡している。今年も岩手県歯科衛生士協会が来訪して口腔ケアの指導をいただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人にパターンを理解して無理のない様に声かけをして対応している。リハパン、尿取りパットを使用しないでトイレ誘導を行っている。	トイレ誘導は利用者個々に無理のないような声掛けで、なるべく自立できるように配慮している。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や朝食事に牛乳を取り入れたし植物繊維のある食材を利用したりしている。毎日の排便を確認している。(チェック表を活用)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の身体能力に応じ重度の認知症の利用者の拒否があったりしているが、必ずしも利用者の希望に添えない時もある。又、気の合った利用者同士で入浴することもある。一人でゆっくり温泉気分を利用している。	入浴時には「ゆ」のノレンが浴室の前にかげられる。利用者は週2～3回の入浴をしている。拒否が強い利用者には、時間をずらしたり、温泉入浴剤を入れたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の時間帯は自室で思いのまま過ごされたり、テレビを見たりして過ごしている。夜間は3回の巡視があり安心して休まれるように職員が見守りしていることを話している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬を処方箋を内容を確認して事務室で管理している。食前食後に口腔内や袋を開けて手渡しをし口に入れた所まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にそれぞれのバックグラウンドで好みや趣味を生かして利用者に応じた役割や出番を見出している。職員と買物に出かけたりお店に行きアイスクリームを食べたり気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩したり施設の入所者に出かけたりしている。今回は地震津波で釜石市市内もガレキの山と化した為出来るだけ外出は控えた。家族と一緒に敬老会に出かれた利用者も有り、職員と利用者で衣類を買いにでかけた。	病院の受付と一緒に出掛けたり、書類を届けたついでに川沿いの土手の散歩をしたりしている。1回1～2人の利用者との買い物に出かけ、衣類の買い物を楽しんだりしている。ドライブは、津波被害が大きかった海岸部への外出を控えたが、毎年出かけている釜石大観音には行き、「海はやっぱり素晴らしい」と、利用者も再認識している。	震災被害に関する利用者の心情に配慮しつつ、なんらかのドライブ実施は今後も検討していただいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先での買物や病院での支払いは出来る利用者と出来ない利用者が有り、出来る利用者には支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者かける事は少ないがまたお友達や家族から電話がかかって来た時は自室でお話をさせていただいている。又県外からのお友達からお手紙を頂いた時は利用者が返事して職員がポストに入れる様対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にはベンチを置きいつでも座れるようになっている。又季節が味わえる様に花や壁画を飾ってある。目の不自由な利用者の為居室前やトイレ前に赤い花を飾り入口が分かるようにしている。	廻廊式のつくりとなっているため、中央の共用空間は広く、食堂テーブルのほかにソファやテレビ、季節の鉢植えや絵などが飾られている。又、玄関前には、ベンチが設置しており、外の空気も自由に感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや畳の小上りでテレビを見たりお喋りをしたり仲よし同士でそれぞれに空間を楽しんでいる。又職員が目に入る範囲で過ごせる様に配慮しながら見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく過ごせる様になじみの家具や思い出の写真や飾ってある又仏壇の代わりに位牌等を置き朝夕に合掌して前人を敬っている。中には大好きなアイドルのポスターや写真を飾っている。	居室は、家族と利用者が一緒に設定するため、利用者にとっては居心地の良い部屋となっている。位牌や、カレンダー、家族の写真、ポスターなど利用者個々に好みものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力を職員は十分理解して混乱の無い様安全、安心して生活して行けるように配慮している。		